

炭坑の歴史と文化遺産を後世に

# 田川市石炭・歴史博物館が 開館30周年

資料館としてスタートした田川市石炭・歴史博物館が、開館から30周年を迎えました。開館記念日である3月1日には記念式典が実施され、今後は企画展などが開催される予定です。

3月1日、田川市石炭・歴史博物館で開館30周年を祝う記念式典が行われました。  
この日、最初の来館者となったのは、お祝いに駆けつけた田川小学校4年生の42人。式典では、児童や関係者の手でくす玉が割られ、安蘇龍生石炭・歴史博物館長が「田

## 新たなスタートへの第一歩 開館30周年記念式典

川小学校は、もともと三井田川鉱業所の子どもたちを教育する学校でした。みなさんは炭坑の歴史に最もかわりの深い学校に通っているということですね。これからもたくさん来館して博物館を応援してください」と挨拶しました。  
その後、尾垣有三教育長と安蘇館長から、30周年後第1号の来館者である「認定書」と山本作兵衛氏の炭坑記録画絵はがきなどの記念品が贈呈されました。  
代表でくす玉を割った野元麻央くんは「代表でくす玉を割ることができてうれしかったです。これから博物館にもっと来たいし、石炭や炭坑のこと、作兵衛さんのことも、もっと勉強したいです」と話しました。

開館以来、30年間で同博物館を訪れた来館者数は延べ約81万5千人。特に、山本作兵衛氏の炭坑記録画などがユネスコの世界記憶遺産に登録された平成23年5月以降は、延べ約23万人が訪れています。31年目の新たなスタートを切った同博物館では、今後、来館者へのサービスの充実として、ボランティアガイドの養成や音声解説を行うガイド端末機の導入、関連グッズの商品開発・販売を行っていくこととしています。

30年間で  
約81万5千人が来館



▲開館30周年をたがたんもお祝いました

田川市石炭・歴史博物館30周年記念／世界記憶遺産登録原画特別公開

## 山本作兵衛墨画展 ～炭坑記録画の源流～

筑豊の石炭産業が陰りを見せ始める昭和33年から、炭坑の現場を離れた山本作兵衛氏は、画用紙に墨を使って炭坑の記録画を描くようになりました。後年の水彩画とは異なる墨画の勢いある筆致は、なにものにも縛られない、自由な創作意欲を物語る、作兵衛氏の初期の作風といえます。墨画に登場する生命感あふれる人物たちから、当時の炭坑の記憶を感じとってみませんか。

- ◆とき 4月27日(土)～5月26日(日) 9時30分～17時30分(入館は17時まで)  
※会期中の休館日：4月30日(火)、5月7日(火)、13日(月)、20日(月)
- ◆ところ 田川市石炭・歴史博物館第2展示室
- ◆入館料 一般210(150)円、高校生100(70)円、小学生50(30)円  
※( )は20人以上の団体料金  
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆展示内容 世界記憶遺産に登録された原画のうち、墨画



で描かれた炭坑記録画約40点を中心とした展示を行います。(一部、墨画と比較して観覧できるよう水彩画約10点も展示します)

田川市石炭・歴史博物館では、開館30周年を記念して、企画展を実施する予定です。詳細が決定され次第、広報たがわや田川市ホームページなどでお知らせします。

○開催予定の企画展

開館30周年記念特別原画展Ⅱ

- ◆とき 10月26日(土)～11月24日(日)
- ◆ところ 田川市石炭・歴史博物館第2展示室
- ◆内容 現在、修復作業を行っている炭坑記録画の原画を、修復後初めて公開する予定です。

開館30周年記念企画展

- ◆とき 7月20日(土)～9月1日(日)※夏休み期間中
- ◆ところ 田川市石炭・歴史博物館
- ◆内容 博物館内全体を使用し、これまで展示されていない貴重な収蔵品や他の博物館などから借用した資料などを展示予定。また、日本の歴史において重要な意義を持つできごとと石炭の歴史を絡め、炭坑の歴史について子どもたちが理解しやすいような展示を行う予定です。